

製品名: NFκB-p105/p50 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab14668

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	NFKB1
別名	NFKB1; Nuclear factor NF-kappa-B p105 subunit; DNA-binding factor KBF1; EBP-1; Nuclear factor of kappa light polypeptide gene enhancer in B-cells 1
遺伝子 ID	4790.0
SwissProt ID	P19838
免疫原	抗血清はヒト NF-κB p105/p50 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 304-353

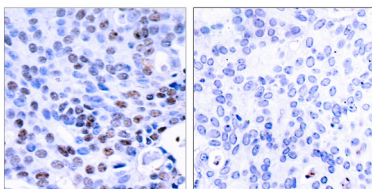
背景

核因子κBサブユニット1 (NFκB1) ホモサピエンス この遺伝子は 105kD のタンパク質をコードしており、26S プロテアソームによる共翻訳プロセッシングを受けて 50kD のタンパク質を生成します。105kD のタンパク質は Rel タンパク質特異的転写阻害因子であり、50kD のタンパク質は NF-κB (NFκB) タンパク質複合体の DNA 結合サブユニットです。NFκB は、サイトカイン、酸化フリーラジカル、紫外線照射、細菌またはウイルス産物などのさまざまな細胞内外刺激によって活性化される転写制御因子です。活性化された NFκB は核に移行し、さまざまな生物学的機能に関する遺伝子の発現を刺激します。NFκB の不適切な活性化は多くの炎症性疾患に関連しており、NFκB の持続的な阻害は不適切な免疫細胞の発達や細胞増殖の遅延につながります。

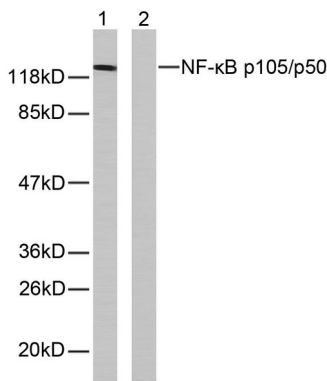
研究分野

T細胞受容体; B細胞抗原; 幹細胞経路; Toll様; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; PI3K/Akt; タンパク質アセチル化

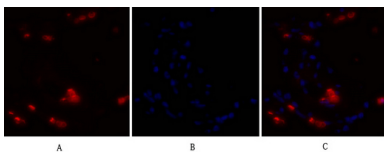
画像データ



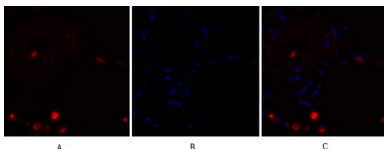
NF-κB p105/p50 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



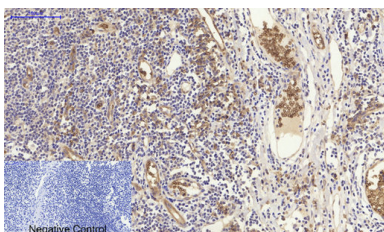
NF-κB p105/p50 抗体を用いた MDA-MB-435 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



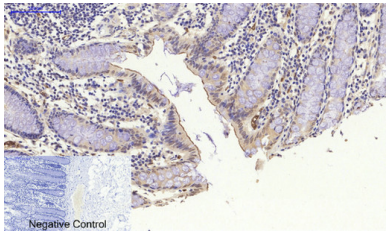
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, NFκB-p105/p50 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



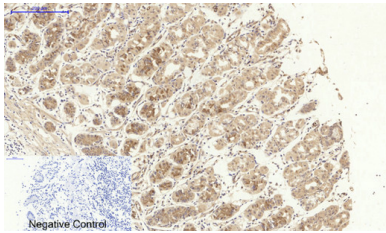
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, NFκB-p105/p50 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



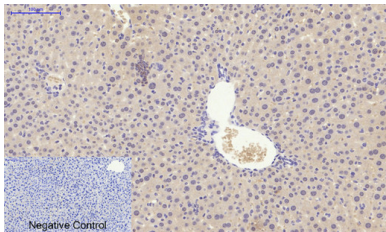
パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. NFκB-p105/p50 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



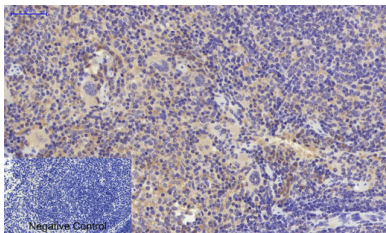
パラフィン包埋ヒト大腸組織の免疫組織化学染色。1. NFκB-p105/p50 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト胃組織の免疫組織化学染色。1. NFκB-p105/p50 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋マウス肝組織の免疫組織化学染色。1. NFκB-p105/p50 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋マウス脾臓組織の免疫組織化学染色。1. NFκB-p105/p50 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。